

# ウェブサイトの言語表現にみる産業遺産のイメージの変容

## Transformation of the Image of Industrial Heritage Representing on the Websites

奥山研究室 16M50441 平野 優太 (HIRANO, Yuta)

### 1. 序

#### 1-1 研究の背景と目的

近年、産業遺産の保存と活用に対し世界的に注目が集まっている。日本においても石見銀山や富岡製糸場の世界遺産登録以降、行政や民間企業、市民団体により炭鉱や工場などの歴史的価値が見直されており、それらの情報を主体的に発信する取組みのひとつにウェブサイトが挙げられる。そこでは、歴史的価値の拠り所が関与した人物や機関及び技術の革新性などの文脈の中で提示されることに加えて、産業遺産の歴史的価値を活用した生産品や空間的特徴を生かした市民活動などの情報が併せて提示されており、ここからは歴史遺構としての価値に留まらない、近代化の発展に伴う多様な生産活動を背景とした産業遺産のイメージの変容が読み取れる。そこで本研究は、産業遺産に認定された構築物のウェブサイトを資料に、その言語表現を分析することで、メディアによる産業遺産のイメージの変容の枠組みの一端を明らかにすることを目的とする。

#### 1-2. 研究の資料

ユネスコ、文化庁、経済産業省の産業遺産リストを参

考に、近代化の過程で発展を遂げた産業に関連する構築物を対象として選定した<sup>1)</sup>。対象とした遺産は赤レンガ倉庫、ダム、鉱山といったように、その規模や構築物の種類、構成が異なることから、対象とした産業遺産の種別を構築物の内訳から図1のように整理して示した<sup>2)</sup>。本研究では、これらの産業遺産に関するウェブサイト<sup>3)</sup>のうち、産業遺産が立地する市区町村の行政または観光協会、産業遺産を管理する民間企業または市民団体のいずれかが制作、発信するものを資料とした(表2)。

### 2. 言語表現にみる産業遺産の価値内容

資料からは図2のように産業遺産の魅力を示すテキストのまとまりを意味単位として抽出できる。これらの意味単位から産業遺産の価値として提示される要素を、名詞を基準に抽出した。それらには、産業遺産そのものや産業遺産を構成する要素に関する内容と、産業遺産でできる体験学習や土産物といった産業遺産とともに提示されることで産業遺産に新たな魅力を付加する内容がみられたため、前者を産業遺産の構成要素、後者を付加要素と捉えた。さらに、構成要素については構築物の性質や過去の様子といった内容がみられたため、価値属

| 構築物の種類 | 建築系          | 土木系        | 工作物          | 具体例                                    |
|--------|--------------|------------|--------------|--|
| 事例     | 工場 倉庫 事務所 住居 | 坑道 ダム トンネル | 鉄塔 立坑 煙突 反射炉 |  |
| 組合せ    | ●            |            |              | 醸造場[3] 農場[2] 赤レンガ倉庫[3] 製糸場 ほか 10       |
|        |              | ●          |              | 鉱山(金属)[4] 採石場[2] 鉄道[2] ダム 隧道 給水塔 ほか 13 |
|        |              |            | ●            | 炭鉱 油田 2                                |
|        | ●            | ●          |              | 治水施設群[4] 鉱山(金属) 選鉱所 炭鉱 7               |
|        | ●            |            | ●            | 製陶工場[2] 送信所 3                          |
|        | ●            |            | ●            | 炭鉱[3] 鉱山(金属)[3] 軍事施設 7                 |

図1 産業遺産を構成する構築物の内訳

| 表1 ウェブサイトの発信団体の内訳 |    |                    |   |
|-------------------|----|--------------------|---|
| 行政                | 11 | 観光協会               | 2 |
| 民間企業              | 24 | 市民団体               | 5 |
| 産業遺産が立地する市区町村の行政  |    | 産業遺産が立地する市区町村の観光協会 |   |
|                   |    | 産業遺産を管理する民間企業      |   |
|                   |    | 産業遺産の保全を目的とした市民団体  |   |

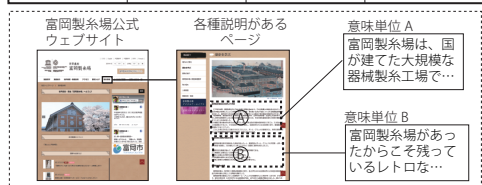


図2 ウェブサイトの構成

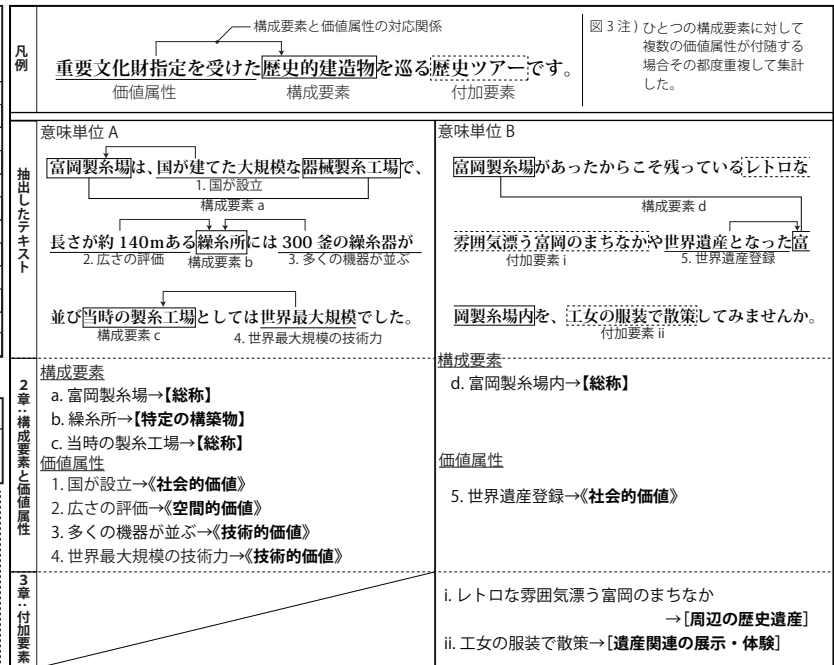


図3 分析方法

性として合わせて抽出した(図3)。本章では、構成要素及び価値属性についてその内容を検討する。

### 2-1 構成要素と価値属性の分類

まず構成要素は、施設名で示される産業遺産全体を指すものを【総称】、産業遺産を構成する構築物群の中から特定の構築物を指すものを【特定の構築物】、素材や部位で示される構築物の部分に関するものや構築物内の機械を指すものを【構築物の一部】として捉えた(表2)。

次に価値属性は、《社会的価値》《技術的価値》《空間的価値》の3つから捉えた(表3)。《社会的価値》は、国の近代化の過程との関係性や地域社会との関係性といった産業遺産の社会背景における位置づけに注目したものである。《技術的価値》は産業遺産の技術的側面に注目したものであり、工場での生産の質に関する評価といった生産過程での技術に注目したものを《産業技術》、工法的特徴といった構築物をつくる際に用いられた技術に注目したものを《構築物の技術》として捉えた。《空間的価値》は、保存状態に関する評価や意匠表現といった産業遺産の空間的側面に注目したものである。

### 2-2 構成要素と価値属性の組合せ

前節で整理した構成要素と価値属性の組合せを検討

し、1つの構成要素に単一種類の価値属性が付随するものと、1つの構成要素に複数種類の価値属性が付随するものとに分けてその内訳を図4に示した。【総称】は複数種類の価値属性で示される割合が高く、《社会的価値》との組合せによるものである。複数種類の価値属性に注目すると、【特定の構築物】は全ての組合せが提示されていたが、【構築物の一部】は《技術的価値》との組合せで示されるといった傾向がみられた。

### 3. 言語表現にみる産業遺産に付加される価値内容

本章では付加要素の内容を検討する。付加要素は、産業遺産の歴史との関連性の有無を検討し、〔産業遺産の歴史に関連するもの〕と〔産業遺産の歴史に関係しないもの〕に大別した。〔産業遺産の歴史に関連するもの〕は〔遺産の展示〕〔遺産に関する活動〕〔周辺の歴史遺産〕として、〔産業遺産の歴史に関係しないもの〕は〔イベントや体験活動〕〔飲食〕〔周辺の施設〕として捉えた(表3)。〔遺産の展示〕は、資料館や展示物のことで産業遺産の歴史を伝える展示に関するものである。〔遺産に関する活動〕は、労働者の活動にまつわる体験学習、現在に至るまで継承されている産業遺産にまつわる祭りやこれらの活動に関与する団体・委員会のことで、産業遺産

表2 構成要素の分類

| 総称                 | 307(41) | 特定の構築物                           | 286(152) | 構築物の一部                   | 125(98) |
|--------------------|---------|----------------------------------|----------|--------------------------|---------|
| 施設名全体の大部分に注目しているもの |         | 産業遺産を構成する構築物群の中から特定の構築物に注目しているもの |          | 構築物の部分や中に置かれた機器に注目しているもの |         |

表3 価値属性の分類

| 社会的価値  | 386 | 技術的価値  | 160 | 空間的価値   | 172 |
|--|-----|--|-----|---|-----|
| <b>国の近代化との関係性</b>  |     | <b>産業技術</b>  | 103 | <b>保存状態の評価</b>  |     |
| 国策でおこなわれた<br>全国へ技術の伝達を目的とした<br>全国から人が集まった<br>他に類を見ない大規模な工事<br>海外から影響を受けた<br>地理的優位性を持っていた | 162 | <b>質の評価</b>  |     | 完全な形で残されている<br>豊かな自然の至るところに痕跡がある<br>柱や赤れんがの壁をそのまま使用<br>竣工当時の姿に忠実に復元<br>手作業時代のあとが見れる | 65  |
| <b>地域社会との関係性</b>   |     | <b>量の評価</b>  |     | <b>意匠表現</b>   |     |
| 地域の発展に貢献した<br>文化的な活動に影響を与えた<br>絵はがき 小説 民謡 小学校の校歌 映画<br>市民から設立の要望が集められた<br>今も市民から親しまれている  | 84  | 均質なタイルを大量に焼成する<br>当時、国内最大規模の技術力<br>100万戸の住宅の消費電力をまかなう<br>月産150貫の銀を産出した | 37  | 旧折衷 古典様式<br>旧通信省の建築様式<br>西洋建築を参考にしている   | 39  |
| <b>遺産認定</b>  |     | <b>新規性</b>   |     | <b>スケールの差異化表現</b>   |     |
| 世界遺産 4史跡 国宝 重要文化財<br>有形文化財 近代化産業遺産 土木遺産<br>機械遺産 景観に関する遺産                                 | 79  | 我が国初の蒸気機関を動力とする機械<br>他に類をみない近代的な設備                                     | 12  | 日本のスケール<br>中央に柱のない大空間<br>国内最大規模   | 31  |
| <b>人物との縁故</b>  |     | <b>構築物の技術</b>  | 57  | <b>景観の特徴</b>  |     |
| 設計者: 辰野金吾 妻木頼黄ほか<br>技術者: H.S.パーマー ほか<br>指導者: 浪沢栄一 クラーク ほか<br>その他: 昭和天皇 伊藤博文 ほか           | 50  | <b>構法的特徴</b>   |     | 歴史的な風土に溶け込んでいる<br>周囲には自然が広がっている ●<br>遊歩道として整備されている ●<br>周囲を一望できる ●                  | 24  |
| <b>負の遺産</b>  |     | <b>工法的特徴</b>   |     | <b>視覚的特異性</b>   |     |
| 戦争に加担した<br>囚人による採掘がおこなわれた<br>労働者が事故の犠牲になった<br>周囲を禿山にした                                   | 11  | 日本の伝統技術を駆使してつくられた<br>すべて人力・手作業で行われた                                    | 16  | 夜中に光る姿は印象的だった<br>内部が鉛色に輝いている ●<br>荒れ果てている ●<br>幻想的な光景 ●<br>中世古城の面影 ●                | 13  |

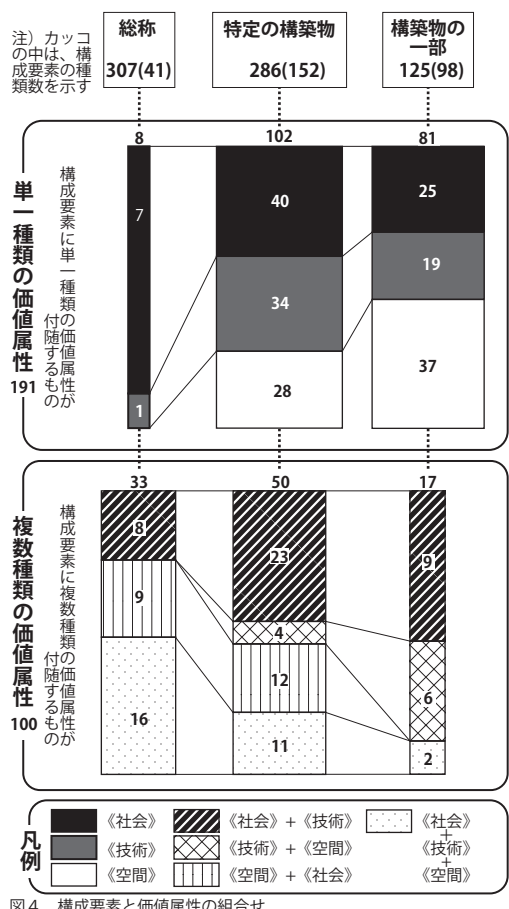


図4 構成要素と価値属性の組合せ

の歴史に関連して提示される人々の活動に関するものである。[周辺の歴史遺産]は、労働者が当時利用していた施設の遺構、近辺に位置する関連する産業遺産や街のことで、産業遺産の歴史に関連して提示される周辺の空間的要素を示すものである。[イベントや体験活動]は、産業遺産の空間を活用したイベントや自然体験のことで、産業遺産の空間に関連して提示される人々の活動に関するものである。[飲食]は、産業遺産の形を模した飲食物や食事を提供する飲食店のことで、産業遺産の観光に関連して提示される体験に関するものである。[周辺の施設]は、商業施設や増設された産業施設といった周辺の施設のことで、産業遺産の観光に関連して提示される周辺の空間的要素を示すものである。

#### 4. 言語表現にみる産業遺産のイメージの変容

本章では、価値属性と付加要素の組合せを資料単位で検討する。まず2章で検討した価値属性の内容について、《社会的価値》〈産業技術〉は産業遺産が過去に有していたシステムや出来事といった無形のものを対象とした価値として、〈構築物の技術〉《空間的価値》は産業遺産を構成する構築物という有形のものを対象とした価値として捉えられることから、ここでは前者を「無形の価値属性」、後者を「有形の価値属性」として大別し、これらの比率を図5左に整理した。次に3章で検討した付加要素の内容について、歴史との関連性の有無を踏まえ、組合せと比率を図5右に整理した。この2つのグラフの価値属性と付加要素の対応関係から、「無形価値・具体型」「無形価値・独立型」「有形価値・歴史追加型」「有形価値・活用提示型」といった、産業遺産の価値を形成する言語表現の内容を4つのタイプから捉えた(図6)。

「無形価値・具体型」は、価値属性で《社会的価値》を多く提示し、付加要素で産業遺産の歴史に関連するもの

のを中心に提示するものである。例えば、No.10 常磐炭鉱は、人口増加や消費拡大といった稼働時に産業遺産が地域社会に与えた影響が価値として重点的に提示され、それとともに、炭鉱が栄えていた様子を示す神社といった周辺の施設が提示されることで、産業遺産の《社会的価値》を裏付けするものであり、ここから産業遺産の持つ無形の価値がより具体的な価値として強調されるという産業遺産のイメージを読み取れる。

「無形価値・独立型」は、価値属性で《社会的価値》を多く提示し、付加要素で産業遺産の歴史に関連しないものを中心に提示するものである。例えば、No.20 黒部ダムは人気の観光地として認知される状況を価値として重点的に提示されているものの、トレッキングやハイキングといった価値属性との関連がみられない付加要素が提示されており、ここから付加要素が産業遺産の価値から独立したものとして様々な活動が提示され、単なる歴史の追体験をする施設に留まらない、多様な活動が行われる場としての産業遺産のイメージを読み取れる。

「有形価値・歴史追加型」は、価値属性で《空間的価値》を多く提示し、付加要素で産業遺産の歴史に関連するものを中心に提示するものである。例えば、No.3 赤平炭鉱は、日本一のスケールといった他の産業遺産と比較した際のスケールの差異化表現といった《空間的価値》とともに、炭鉱が廃れる際に記憶の継承のために市民の人たちが行い始めた伝統的な祭りといった付加要素が提示されることで、産業遺産が歴史背景を持つ《空間的価値》として強調されるという産業遺産のイメージを読み取れる。

「有形価値・活用提示型」は、価値属性で《空間的価値》や〈構築物の技術〉を多く提示し、付加要素で産業遺産の歴史に関連しないものを中心に提示するものである。例えば、No.15 横浜赤レンガ倉庫は、建物を作る際

表3 付加要素の分類

| 産業遺産の歴史に関連するもの 182   |   |  | 産業遺産の歴史に関連しないもの 136  |   |   |
|--|---|--|--|---|---|
| 遺産の展示 81   | 遺産に関する活動 47   | 周辺の歴史遺産 54   | イベントや活動 56   | 飲食 59   | 周辺の施設 21  |
| 資料館<br>炭鉱関係の資料が展示された資料館<br>文献や金山絵巻を展示する博物館<br>水道の資料を展示した技術資料館<br>世界遺産センター 46 | 体験学習<br>当時と同じ道具を使った砂金採り<br>運転体験できるSL機関士体験<br>馬車鉄道の鉄道を使ったトコロ馬体験<br>工女の服装で散策<br>観光坑道見学コース 25          | 労働者が関与した施設<br>炭鉱マンがぶつかりあった相撲場<br>炭鉱が隆盛だったことを示す神社<br>労働力の補填のための刑務所<br>殉職者慰霊碑<br>休憩所として使われた倶楽部棟 26 | イベント<br>横浜アウトバーフェスト<br>プロジェクションマッピング<br>大迫力の観光放水<br>選鉱場跡で行われる祭り<br>音楽イベントやバザール 32                    | 飲食店<br>貯蔵庫を改修したレストラン<br>ノリタケ食器を使ったレストラン<br>祖先が製糸場の職人の料理店<br>生カブトビールが飲めるカフェ 7            | 商業施設<br>テーマパーク「マイントピア別子」<br>世界のワインがあるワインセラー<br>採掘の際に出る温泉を利用した施設<br>お土産を豊富に取り揃えた売店<br>隣にある横浜ランドマークタワー 14 |
| 資料館の展示品<br>工事中の様々な難局が記された手記<br>採掘現場を再現したジオラマ<br>実際に使われていた道具 35               | 伝統的な祭り・行事<br>あかひら火祭り<br>炭坑節 4   | 関連する産業遺産<br>横須賀製鉄所<br>近接する高島炭鉱<br>石見銀山に影響を受けた佐渡金山<br>北海道遺産<br>明治日本の産業革命遺産 16                     | 自然体験<br>気軽に楽しめる森林浴<br>トレッキング<br>遊覧船に乗ってクルーズする<br>トンネルや新湊川を巡る散策<br>トラクターに乗る自然ツアー<br>土肥炭といった四季折々の風景 24 | 食事<br>赤れんがの名前を借用したお酒<br>金粉を使った金山うどん<br>手作りチーズを使用したピザ<br>ダムのをモチーフにしたカレー<br>高く評価されたワイン 23 | 増設された産業施設<br>総合乳製品工場<br>新しく作られた新湊川トンネル 5  |
|  | 団体・委員会<br>点在している遺産を紹介する協議会<br>最後の経営会社の片倉工業株式会社<br>解説案内をしている同志の会<br>名所化をめざす風景資産保存会<br>提携した神戸土木事務所 18 | 街<br>炭鉱の発展と共に発展した大牟田<br>石炭産業によって発展した田川市 12   |  | 土産物<br>牧場のミルクを使用したチーズ<br>金箔を使ったカステラ<br>レンガをモチーフにしたチョコ<br>石炭になぞらえた塊炭飴 29                 | その他<br>坑道をモチーフにした彫刻物<br>25mの鉄塔の記念塔 2  |



に用いられたレンガに焦点を当てて、その歴史的価値が提示され、それとともに付加要素としてレンガの形を模した食品が提示されており、ここから産業遺産の有形の価値が活用され、特殊な空間に注目した価値から食品といった一般的なものへと価値が移ることで、より身近な産業遺産のイメージを読み取れる。

### 5. 結

以上、産業遺産のウェブサイトの言語表現における産業遺産のそのものや産業遺産を構成する要素に付随する

価値属性と付加要素の意味内容と組合せから、現代社会における産業遺産のイメージの変容を検討した。その結果、「無形価値・具体型」「無形価値・独立型」「有形価値・歴史追加型」「有形価値・活用提示型」の4つのタイプを見出した。

注1) ユネスコが認定する世界遺産の中で産業遺産と規定されているもの、文化庁が指定する国宝 重要文化財及び登録有形文化財のうち産業・交通・土木に属するもの、経済産業省がまとめた近代化産業遺産群 33 及び近代化産業遺産群続 33 に記載があるものを資料選択の際に参考にした。

注2) 炭鉱や鉱山は資料ごとに産業遺産の保存状態に差があることを加味した。

注3) 2017年12月時点で公開されているウェブサイト上の言語表現を資料とする。

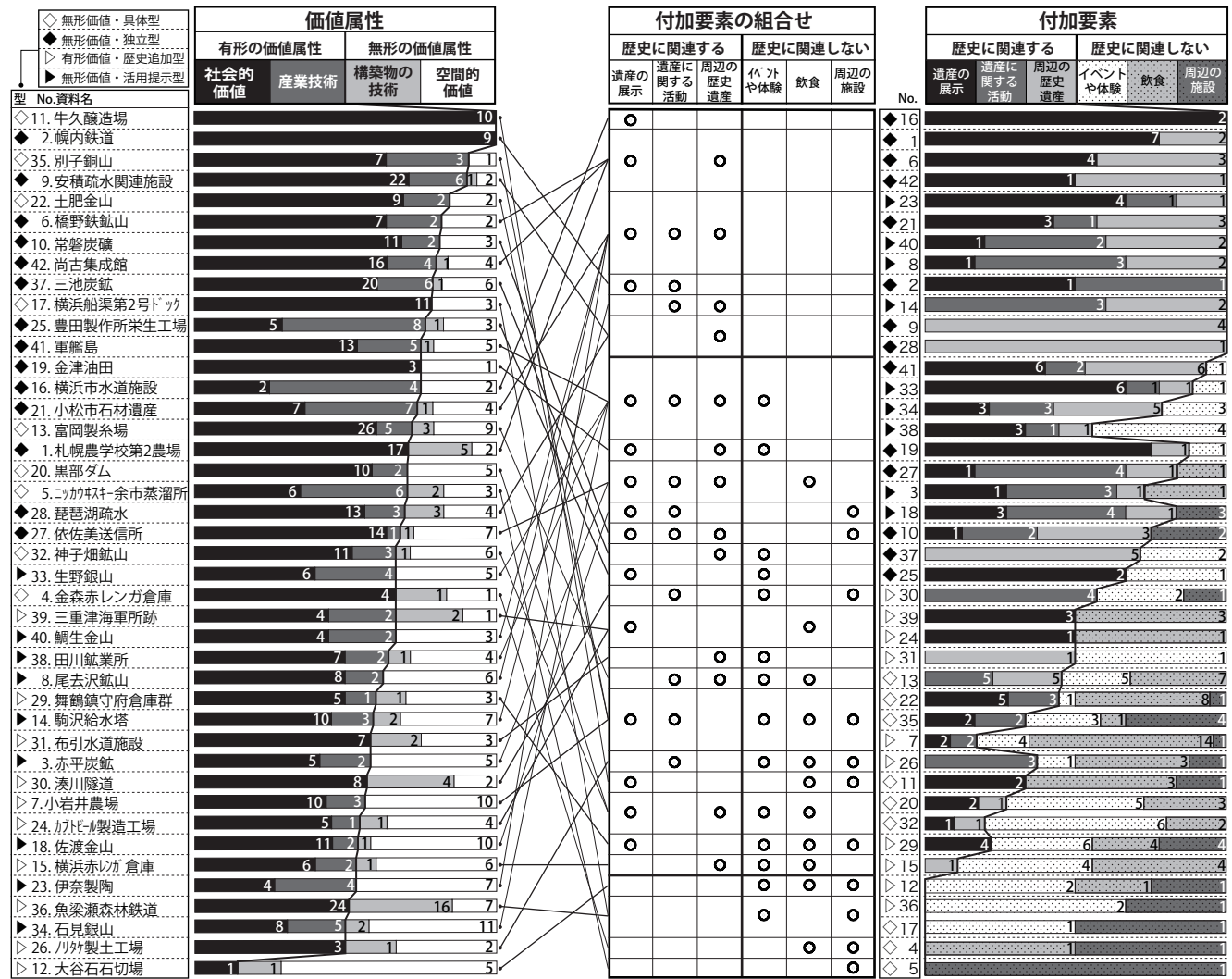


図5 価値属性と付加要素の関係性

| ◆ 無形価値・具体型  | ◇ 無形価値・独立型   | ▶ 有形価値・歴史追加型   | ▷ 有形価値・活用提示型   |
|---|--|--|--|
| 1,2,6,9,10,16,19,21,25,27,28,37,41,42   | 4,5,11,13,17,20,22,32,35   | 3,8,14,18,23,33,34,38,40   | 7,12,15,24,26,29,30,31,36,39   |
| <b>No.10 常磐炭鉱</b><br>炭鉱開発は、関連産業が生まれ、人口増加や消費拡大を呼び込みました。・・・内郷山神社は炭鉱が隆盛だったことをしめします。                | <b>No.20 黒部ダム</b><br>黒部ダムは大自然に囲まれた人気の観光地として知られている。・・・黒部ダムのある立山連峰はハイキングやトレッキングコースとしても有名です。    | <b>No.3 赤平炭鉱</b><br>ボタ山としては日本一のスケールを誇り、頂上から周囲が一望できる。・・・ボタ山に火を灯す あかびら火まつりなど、ヤマは今に続く多くの生活文化を残した。   | <b>No.12 大谷石石切場</b><br>地下の巨大建造物を思わせる景観・・・巨大地下空間ではコンサートや美術展などが開かれたイベントスペースとしても注目を集めています。            |
| <b>No.41 軍艦島</b><br>軍艦島の人口密度は当時の東京都区部の9倍にまで達しました。・・・資料館では端島で実際に使用されていた実物品等の展示や、軍艦島映像の放映も行っています。 | <b>No.35 別子銅山</b><br>かつて世界一の産銅量を誇った別子銅山は貴重な産業遺産です。・・・ヘルシーランド別子での入浴など、マイントピア別子にはまだ楽しめる施設がたくさん | <b>No.34 石見銀山</b><br>鉱山に関する遺跡と豊かな自然環境が一体となって文化的景観を形成する・・・石見銀山に影響を受けその後生野銀山や佐渡金銀山などの全国の鉱山に普及しました。 | <b>No.15 横浜赤レンガ倉庫</b><br>レンガはすべて国産品で、2号倉庫だけで318万個近く使われています。・・・レンガの壁のようなチョコレートは厚さ1.5cm、8枚でレンガ1個分サイズ |

図6 言語表現にみる産業遺産のイメージの変容